Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art

Y+T MOCA

横尾忠則現代美術館

PRESS RELEASE

感謝　兵庫県芸術文化協会60周年

横尾忠則のビフォー／アフター
Yokoo Tadanori's Before & After

2027年1月30日(土)—5月5日(水・祝)

開館時間　10:00—18:00
※ 入場は17:30まで
休館日　月曜日　ただし3月22日(月・振休)、5月3日(月・祝)は開館、3月23日(火)は休館
会　場　横尾忠則現代美術館



ポスター(デザイン:横尾忠則)

展覧会について

1960年代、横尾忠則はグラフィック・デザイナーとして、そのキャリアをスタートさせました。まだDTPがなかった当時、手作業でつくられたポスターなどの原画は、しばしばそれ自体がまるで作品であるかのような存在感を示しています。また1980年代の画家宣言以降は、ポスターの原画として時に絵画が用いられます。それらはもはや原画と本画の主客関係を超えて、それぞれが自立した作品のように感じられます。こうした多彩なバリエーション展開は、自作絵画を反復する行為とも響き合って独自の作品世界を生み出しています。

本展では、そうした横尾ならではの「ビフォー／アフター」に着目し、関連作品を併置することで、その独特な造形思考に迫ることを試みます。

①原画と本画

横尾のポスターとその原画とを併置して紹介します。1980〜1990 年代にコンピュータを用いた DTP（デスクトップ・パブリッシング）が台頭する以前は、ここに見られるように原画を手描きし、カラーチップ等で色を指定し、写植で文字組みした原稿を印刷所に入稿することで、ポスターなどの印刷物を作成していました。当時、これらの原稿は使用後に破棄されることも少なくありませんでしたが、横尾はそれらを極力回収し、手許に保存するように努めていたのです。それらは DTP 興隆以前の印刷物の作成過程を知るうえでも貴重な資料といえるでしょう。



《新宿泥棒日記（創造社）》
1968年
当館蔵



《新宿泥棒日記（創造社）（版下）》
1968年
作家蔵

②主題と変奏

横尾はしばしば過去の自作を再利用しながら、新たなイメージに昇華させます。それはまるで、音楽における「変奏曲」を連想させます。

《横尾忠則展覧會》は、1960 年代の《日宣美展》を再利用したものです。後者は B2 サイズ（72.8×51.5cm）で、前者ではそれを B1 サイズ（103.0×72.8cm）のなかに原寸で配置し、周囲の余白に新たな文字情報をレイアウトしています。



《日宣美展（日本宣伝美術会）》
1968年
当館蔵



《横尾忠則展覧會（西武百貨店）》
1981年
当館蔵

③メディア変換

1980 年代初頭のいわゆる「画家宣言」以降、横尾は絵画の主題の選択に頭を悩ませていました。デザインの場合は、原則として伝達すべき内容はクライアントから伝えられますが、絵画の場合は必然性のあるテーマを自ら導き出さねばなりません。

そんな折、美術評論家の東野芳明より、わざわざ「画家宣言」などしなくても既に 60 年代から絵画を発表していたではないか、と指摘されます。東野の念頭にあったのは、1966 年に南天子画廊で開催された個展で発表された、キャンバスにアクリル絵具で描かれた「ピンク・ガール」シリーズでした。

これがひとつのきっかけとなり、横尾は過去のポスターデザインを大画面の絵画に変換する試みをいくつか行っています。



《Antique Market Open!
（ハナエ・モリ インターナショナル）》
1978年
当館蔵



《Open》
1987年
当館蔵

④反復（セルフカバー）

横尾は絵画制作において、しばしば過去の自作を模写したり、それを下敷きに新たなバリエーションを生み出しています。それは彼が私淑する画家ジョルジョ・デ・キリコが、過去の自作を模写したり、まったくデタラメな日付のサインを入れたり、時にはあえて贋作にサインを入れるなど、美術におけるオリジナリティーの問題を嘲笑うかのような態度をみせたことを想起させます。

2000 年から始まった横尾の「Y 字路」シリーズは、故郷西脇の夜の三叉路を取材したことが起源です。左右どちらの道に進むべきか、問いかけを発しているような謎めいた絵画は、やがて横尾のライフワークとしてシリーズ化されました。《暗夜光路　N 市−II》は、とりわけ数多くの反復作品が描かれています。



《暗夜光路　N市−II　三度（みたび）》
2002年
当館蔵



《黒い空洞》
2014年
当館蔵

⑤ペインティング・ポスター

2000 年頃、横尾は当時の近作ポスターの上から絵具を塗ることで、いわばポスターを絵画化することを試みました。あまりにも激しく加筆され、もとのイメージが部分的にしか残っていない例もあれば、ほんの少しだけ加筆することで異なる世界観を生み出そうとしている作品もあります。実はこれ以外にも、ペインティング・ポスターは数点残っていますが、試し塗りの域を出ていないものもあります。そもそも横尾の作品は完成／未完成の境目が曖昧な例が少なくないのですが、ペインティング・ポスターはこの時期にしか制作されていない、まさに実験的な作例といえます。



《横尾忠則　快美王国（ラフォーレミュージアム原宿）》
1998年
当館蔵



《2:1》
2000年頃
当館蔵

関連イベント

キュレーターズ・トーク

担当学芸員が本展の見どころを分かりやすく解説します

日　時：2 月 20 日（土）、3 月 20 日（土）、4 月 24 日（土）　いずれも 14:00―14:45

会　場：当館オープンスタジオ

講　師：当館学芸員

参加費：無料

※イベントの詳細や、その他のイベント情報については当館ウェブサイトをご覧ください

相互割引

・兵庫県立美術館（特別展またはコレクション展）のチケット半券→当館企画展が団体割引料金に

・当館企画展のチケット半券→兵庫県立美術館（特別展またはコレクション展）が団体割引料金に

※会期中のチケット半券に限り有効

基本情報

感謝　兵庫県芸術文化協会60周年

横尾忠則のビフォー／アフター
Yokoo Tadanori's Before & After

2027年1月30日（土）—5月5日（水・祝）
開館時間　10:00—18:00　※入場は17:30まで
休館日　　月曜日　ただし3月22日（月・振休）、5月3日（月・祝）は開館、3月23日（火）は休館

主　催　　横尾忠則現代美術館（[公財]兵庫県芸術文化協会）
協　力　　ホテルオークラ 神戸
観覧料　　一般800（600）円、大学生600（450）円、70歳以上400（300）円、高校生以下無料
- （　）内は20名以上の団体割引料金
- 障がいのある方は各観覧料金（ただし70歳以上は一般料金）の75%割引、その介護の方（1名）は無料
- 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください
（障がいのある方は、障がい者手帳アプリ「ミライロID」もご利用いただけます）

出品点数　約100点

※状況に応じて予定が変更になる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください

お問合せ

横尾忠則現代美術館
〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30
tel. 078-855-5607（総合案内）　fax. 078-806-3888
学芸担当：山本淳夫〈yamamoto_atsuo@ytmoca.jp〉
広報担当：早水千尋〈hayamizu_chihiro@ytmoca.jp〉

画像データは当館ホームページ（https://ytmoca.jp）のプレス専用ページからお申込みいただけます
ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください

Yokoo Tadanori Museum of Contemporary Art
Y+T MOCA
横尾忠則現代美術館